

光・量子飛躍フラッグシッププログラム（Q-LEAP）
ステージゲート評価結果（5年目）

1. 研究開発課題名

高感度重力勾配センサによる地震早期アラート手法の確立

2. 研究代表者名（所属機関名・職名は評価時点）

国立大学法人東京大学 大学院理学系研究科・准教授
安東 正樹

3. ステージゲート評価結果（5年目）

○結果

5年目ステージゲート通過とする

○評点

A:評価項目を満たしており、課題の継続実施が妥当である

○総合評価コメント

本研究における3つの研究課題①「高感度重力勾配計の実現」、②「データ解析手法・理論モデリング」、③「光・量子技術を用いた重力勾配系の高感度・小型化」それぞれのSG目標については達成済みおよび達成見込みであると認められる。精密なねじれ振り子を低温化で実装した点はユニークであり、開発体制についても東大・地震研との連携が十分に機能していると評価できる。若手研究者の育成も順調に進んでいるが、インパクトの高い学術誌への掲載がないのは今後の課題である。

なお、SG後の研究計画については、当初計画のままで進めても先進性・独自性を十分発揮することができると判断しており、地震計測の新たな手法の開拓への貢献が期待できる。

以上を踏まえて、本課題は継続するのが妥当と判断する。

以上